

NORIKO TAKAHASHI



たかはし・のりこ ●昭和40年11月生まれ。西山字押野在住。4年前に就農。趣味はガーデニングで、好きなことは料理。一瞬一瞬を楽しむことを日々心掛けている。

「みんないい顔してるね」夏休みに帰省した息子が手まめ館で生産者さんたちの写真を見てしみじみ言った。奥深い豊かな笑顔。作る人の優しさがつまっていた。農産物や加工品はどれも本物で美味しい。耳を澄ませば、朝・昼・夜、また、めぐる季節の中でさまざまな生きものたちが音の世界を奏でる。ここならでは癒しのエネルギー。幼かった子供たちと、夜空に輝く満天の星に歓声をあげ、チョウやカブトムシ、カマキリなど昆虫たちの脱皮や羽化にも共に時間を忘れて目をみはることもあった。生命の神秘を感じる感動の瞬間である。村に向かう坂の途中で風が心地よくなる。世界が変わる感じ。中学生のころは村の看板から道路が狭くなると思えなかったのに、人間の感覚とは思えないものだ。鮫川で生まれ育って、離れて戻ってきた。北海道へ嫁ぎ、夫の仕事の関係で青森、岩手、宮城、横浜などで生活したがどこも「住めば都」だった。

村民【随想】リレー ①

高橋教子さん

宝物がいっぱい！

た。その間、家族で時折訪れた鮫川は「住みたい所」となった。移住して四年目になる。二人の息子たちは二、三年暮らして、今はそれぞれの夢に向かってこの地を離れているが、幼少期からいただいたエネルギーは彼らの生きる原動力となるだろう。豊かな笑顔に優しさ溢れる人々とのつながり、見るもの・聞くもの、感じる風・食べるもの・ゆつくり流れる時間、全てが私たちが応援して欲しい自然の厳しさもまたその中で生かされていく自分に気付かせてくれる言葉に尽くせない多くの宝物、奇跡の恵みをたくさんいただいた。世界一幸せな村・鮫川がここにあり、世界一幸せな村・鮫川がここにあり、と勝手に思っている。感謝して、今日も乾杯！

次は 芳賀勝美さん（赤坂東野字戸草）にバトンタッチ！

さががわを 彩る集い 4

子どもたちに絵本に親しんでほしい



おはなしポケット

須藤幸子代表/会員5名

おはなしポケットは、平成十六年に設立し、絵本が好きなたちがボランティアで読み聞かせを行っています。鮫川小、中学校での読み聞かせや親子読書教室、おはなしの森などの活動を通して、子どもたちに絵本や本に親しんでほしいと考えています。

ボランティアで参加している人たちは、子育ての中で母親が子どもに絵本を読み聞かせるような気持ちで活動していると話します。子どもたちの反応も集中して見て、聴いています。読み聞かせを通して、子どもたちの聴く態度が養われる手助けをしています。絵本は、小さい子どもだけが読むものと思っている人が多くいると思います。しかし、絵本は年代を越えて楽しめるもので、その年代によって受け取り方が変わるどころが魅力のひとつです。

Book

図書館の街話

図書館からおすすめる本をご紹介します
鮫川村図書館（村歴史民俗資料館内）
☎49-3106

癒しの禅語

（片岡鶴太郎著、佼成出版社）

多方面に活躍する片岡鶴太郎が心惹かれる30の禅語を紹介。自身の体験を通して感じたままを綴り、禅語のなかにある「こころ」を探る一冊です。



ことりのうち

（さとうわきこ著、福音館書店）



自然の中でいつも奇想天外なことを始めるばばあちゃん。「ことりのうちをいっぴいつくろう！」やってきたのは大きくてへんてこな鳥。そこで…。おひるねも大好きなばばあちゃんです。

第3土曜日は 家族一緒に読書の日

俳句

金婚の朝のすずめや騒がしく 中井 恒峯
田に立てる紫山子までもが流行着 松本 精一
雨乞いも天地に通じず雷鳴のみ 北條素人坂
共食いのシリア戦争羽抜鳥 黒田 寿香
猛暑続き脳味噌能能中止中 鈴木 米子
砂すくう球児の波黒光り 齋須 信子
秋風や押し流されて行く鮮 小松ハル工
再稼働義歯のはきしりつづく法師 土龍 庵
カブトムシ宅急便の荷に入れる 山本 恵子
子煙燻の釜ふりかざす親に似て 前田 縫子
道路工事の騒音の中八月来つ 山本五十鈴

短歌

今一度元氣になりたいと頼う朝病棟の窓に 一筋の光 坂本 雪絵
岩の間に伸びし紅葉の色冴えて露天の風呂は絵の模様なし 鈴木イミ子
雑草を除る身に何を思うかや羽音を立てて蚊のまつわり来 前田 初
曾孫は今日爺婆の家を訪ね来ぬ小遣いやればアリガトウという 佐藤 春枝
幸せの文字を探せば花影にほのとかがよう光りを見たり 須藤 幸子
何よりの栄養剤が朝採りの野菜を籠に満たして帰る 水野 珠子
人の生分からぬものと説く人のめつきり瘦せしその二の脱は 関根 瑞恵

未だ生きる力をためて蝉一つが子の葉陰に宿りていたり 満井 清乃
疎んじて暮らすにあらず人生の峠と想う齡にやすむ 坂本 伊紀
領土裁判応じぬ韓国に弱味ありじゃんじゃん糾その不正さを 平 子
新盆の済みて送りし遙かなる天国の夫の安らぎ祈る 石井 幸子
我がからだ思うに任せぬ生活の続きて今は施設が頼り 杉山 磯子
庭先の朝顔の花咲き競い今日も元氣にと応援するがに 須藤シツ工
戻らない戻りたくない戻れない汚染が拒む放射能故に 松本 一郎
風評の風は何処吹く知らぬに稲は元氣に穂波を揺らす 前田喜三子
梅雨晴れの湖畔に並ぶヴィラホテル湖面に映る影揺らめきぬ 藤田千代子
子がくれし紀州の梅干暑氣払う病知らずに此の夏越せり 関根ハナ子
盆供養すむも残暑の日盛りには波打つ稲田を見回り笑みぬ 関根 富久
蟋蟀の鳴く声せわし草叢にそつと寄り聞く残暑の夕べ 鷺野谷 満
妻今日もグランドゴルフにステック振るホールインワンに誇る顔見せ 板橋 源良
子や孫と迎え火を焚くわらわらかき蕨の灯に夫の顔ちくる 関根キヌ子
猛暑日の記録を連続めり返る吾が体温も気温との背比べ 矢吹 一二
猛暑日の続く峡田はこどもなく豊稔迎える稲穂はなびく 北條 平

若者の広場 No.94

Young Plaza

湯座勇太さん

■今、夢中になっているものは何ですか？

高校のときからスケートボードをやっています。最近では、地元の友達と集まって練習しています。

■これから新たにやってみたいことや目標はありますか？

自動車整備士の仕事をしていますが、お客様の命に関わる事もあるのでしっかりと責任を持って仕事をしたいです。あとは、遊びでも趣味でも若いうちにしかできないことにチャレンジしてみたいです。

■村に住んでいて感じることや現在の村について思うことはありますか？

鮫川村は本当にほのぼのしているなと感じます。村外で一人暮らしをしていた時期もあったので、余計に感じますね。

■これからの鮫川村に望むことはありますか？

商店街を見ても閉店した店が多く、買い物のできる場所が少ないですね。閉店した店もそのままになっていて、さらに寂しい感じがします。以前のようににぎやかな商店街になってほしいです。

次は蛭田光さん（渡瀬字上耕地在住）の予定です。

今しかできないことに挑戦したい



ゆざ・ゆうた
平成2年7月27日生まれ 22歳
A型 しし座
趣味はスケートボード、ゴルフ
赤坂中野字真坂在住

3年生

2年生

1年生

総合職場体験学習

地域や事業所に対する理解を深めることができました。

学校だより

(96)

鮫川中学校編

九月十一日から十三日の三日間、総合職場体験を行いました。

一年生は「地域・伝統・文化」について学習し、鮫川源流探検や江竜田の滝散策、朝日山登山を行いました。

二年生は「職場体験学習」で村内の各事業所で体験し職業観、勤労観を深めることができました。

三年生は「次世代交流」で鮫川たんぼの家で、障がい者との関わりを深めることができました。

八月二十九日に東白川中学校音楽祭が行われ、見事、最優秀賞を獲得し県大会出場を果たしました。県大会は、九月六日に須賀川市文化センターで行われました。合唱王国福島県の各中学校との響き合いの中、銅賞ではありましたが、鮫川中学校のハーモニカを声高らかに披露してくれました。

(文・写真/鮫川中学校)

九月八日に第二回目のPTA親子奉仕作業が行われました。全地区の保護者の子供たちが中心となり、作業を行いました。天候にも恵まれ、親子で一緒に気持ち良い汗を流すことができました。校地も見違えるほどきれいになりました。ご協力ありがとうございました。

県大会出場おめでとう
特設合唱部

八月二十九日に東白川中学校音楽祭が行われ、見事、最優秀賞を獲得し県大会出場を果たしました。県大会は、九月六日に須賀川市文化センターで行われました。合唱王国福島県の各中学校との響き合いの中、銅賞ではありましたが、鮫川中学校のハーモニカを声高らかに披露してくれました。

(文・写真/鮫川中学校)

自宅には、長年描きためた絵手紙などがたくさん飾られています

「絵手紙は絵のうまい、下手人は関係なく、受け取った人に元氣や感謝の気持ちを伝えることが大切」と話す鈴木米子さん(66)。文字だけではなく少し絵が添えてあるだけで受け取った人の心を温かくします。退職後にもともと絵が好きだったこともありポケ防止にもなればと絵手紙を始めたという米子さん。独学で描き始め、

現在では社会学級などの公民館事業やグリーンツーリズム体験などで指導を依頼されます。米さんは野花を多く描きます。それは、数が減りつつある野花を書き留めておきたいという思いからです。そのため、その花が持つ色などの特徴を素朴に近づけるように、野花の素朴な優しさを表現するように心がけて描きます。



絵手紙は、誰でも気軽に始められるところが魅力のひとつと米さんは話します。基本の色づかいなどを覚えてしまえば、誰でも簡単に描き始めることができます。画材や題材、描き方も個性を出して自由に描いてみてほしいと言います。受け取る人のことを考えて気持ちを取り入れることが喜ばれる絵手紙を描く秘けつだと教えてくれました。

名人・達人 Vol.3

絵手紙名人
鈴木米子さん
すずき・よねこ/赤坂中野字新宿在住



モニターツアーの参加者にうちわの絵付けを指導する米子さん

絵手紙は誰でも気軽にできるもの
気持ちを込めて描くことが大切